



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人(局長)
村岡 良祐
(工業化学科2年)

研究成果を披露

工夫を凝らしたプレゼン

学科の特色を生かした課題研究発表会が12月から開催されている。下級生や先生方などの前で3年間の研究の成果を披露した2学科を紹介する。

電子機械科

エンジンを手作り

挑戦は成長につながる



スターリングエンジンをプレゼン

電子機械科3年生の課題研究発表会は12月17日に体育館で行われた。

清水亮太君の班は「蒸気エンジン」をテーマに発表した。清水君は「私はものづくりの旋盤をやっている、さまざまな部品作りに向いていると思います、エンジンをすることに

た。昨年はエアエンジンの発表をしていたので、今年は蒸気にしようと考えた。部品はほとんど旋盤で作った、フライス、溶接と各部門で分担して作製した。工夫したのはシリンドラーで、独自の偏心を用いたものにする事で吸排気の面を作った。努力した点は部

土木科

測量しコースを作製

土の性質を調べる

土木科の課題研究発表会は12月16日に視聴覚室で行なわれた。3年生が「測量」「土質」「コンクリート」「道路」「施工・資格」の5つの班に分かれ、2年生に研究した内容をパワーポイントでプレゼンテーションをした。

測量班の班長の山本陽翔君はラジコンカーを走行させるコースを作るためにトータルステーションを使って距離を測量してコースの長さを決め、草をむしり、整地をしたことを発表した。

山本君は「パワーポイントの文字が見やすいように大事などところを大きくして強調した。完成したコースでラジコンカーを走らせたのが楽しかった。この経験を就職する会社でプレゼンテーションがあるときに生かしたい」と話した。後輩に向けて「課題研究は一杯楽しむこと」と語った。

伊藤論哉君が班長を務める土質班は、縮固めや含水比試験を通して土の性質を調べ、作業工程と計算方法、その結果を発表した。

伊藤君は「プレゼンテーションでは難しい内容を噛み砕いて説明するように工夫した。実験を通して班員との仲を深めることができて良かった。仲間とのコミュニケーションをうまく取れるように、これからもっとたくさんの人と会話をしていきたい」と話した。後輩に向けて「仲間とのコミュニケーションを取って、作業をどれだけ効率的に進められるかが大事」とアドバイ

スした。

プロチームに入団

ビーチバレーボール
森 悠人君(土3)



趣味はサイクリング

旭川で活動しているビーチバレーボールのプロチームDOTS(ドッツ)に4月に入団する。

8月に大阪府で行なわれた全日本ビーチバレー高校男子選手権に出場して、もっと上の舞台で試合をしたいと思い入団を決めた。入団しようと思ったときにバレーボール部顧問

の椎野泰彦先生と親に相談した。プロチームでは、まず体作りやビーチバレーの基礎を身に付けられるようにする。1年目は何回大会に出場できるかわからないので、小さな大会でも経験できることに取り組み負けないように頑張る。

身長が低いので戦っていきけるかがどうか不安。しかし、ビーチバレーをやりたいから入団は楽しんだ。他の選手のプレーをもっと見て成長し続けられるように頑張っていきたい。世界を相手に戦えるようになることが目標だ。

千葉佑人君の班は4人で「スターリングエンジン」について発表した。スターリングエンジンとは熱い部分と冷たい部分から出る空気膨張を利用してエンジンで、化学燃料を使わずに動かせ環境に優しい。千葉君は「工夫点は少しでも軽くなるように炭素鋼だけではなく、アルミを使用したこと、ピストンから空気が漏れないようにしたこと。苦労した点はネットで調べて

既存の図面を使用した、分らない部分や間違っている部分があり、自分たちで修正した点」と話した。後輩に向けて「初めて行なう内容は大変で失敗することもあるが、取り組んでいくうちにものづくりのおもしろさや新しい技術、色々な発見があって良い経験になる。ものづくりに限らず挑戦は必ず成長につながる。積極的に行動してほしい」と語った。

新聞局 12回目の全国大会へ 皆さんの協力のおかげ

新聞局は今年7月28、30日に香川県で行なわれる第49回全国高等学校総合文化祭新聞部門への参加が決定した。前年度11月から今年度10月までに発行した新聞が審査の対象になる第29回全国高校新聞年間紙面審査賞の第一次審査を通り、入賞校枠での参加権を得た。新聞局は工高タイムスの第471号から第500までの30号を応募した。

総文祭へは2人が参加する。新聞局が入賞校枠で参加するのは10回目。北海道高文連からの推薦による参加を含めると12回目となる。

局長の村岡良祐君(化2)は「全国大会出場が決まり、とてもうれしい。取材に協力してくれる旭工生や先生方のおかげです。これからも新聞制作を頑張るので協力をお願いします」と話した。



工具箱

皆さんは冬休みをどのように過ごしていただろうか。私は一昨年から祖母に教えてもらい、第2人と大みそかに祖母の家で年越しうどんを手作りしている。親戚18人が集まるため麺の量は3kgになる。▼うどんの作り方はシンプル。3人前だと強力粉300gと薄力粉100g、塩少々をボウルに入れ、200ccのぬるま湯で混ぜ、15、20分生地にコシが出るまで手でこねる。そして2、3時間暖かい場所で熟成した後に生地を包丁で適当に切る。切った麺を10分ゆでたら完成▼今回作ったうどんは昨年と比べて生地の水分が多かったり、足でこねたりしたので包んだビニール袋が破けたりと失敗もあった。水分が多いと生地を切る際に断面がくっついてしまったため、ちぢれ麺のような食感になってしまふ。水分の量は麺の硬さにはあまり影響しないが、水分が多くなったら薄力粉をまぶすと良い▼大みそかの夜に親戚と祖父の友人が打った年越しそばと一緒に皆でおいしく食べた。とても好評だった。多めに作ったので余ってしまった、親戚に分けたがそれでも余り、元日の夜にもうどんを主食として食べることにした。一晩置いていたため固まっていたが、沸騰した湯に1分通すと食感はそのままで、のびることなく食べることもできる家族から好評だった▼今年の大みそかは、作るうどんの量を減らす。おいしいうどんをつくるために夏休みにも作る予定だ。(電子稲留)

